

織 研 教 室

2017年(平成29年)10月31日 火曜日

くらしのまわり

ファッションとライフスタイルをリードする街として著名な代官山のヒルサイドテラスで『猿楽祭』(10月8、9日)が開催された。今年のテーマは『つながる 代官山』だ。このテーマに見合う地域連携企画をご紹介します。

NPO法人「代官山ステキ総合研究所」は代官山の変化を10年以上見つめてきた。この間の代官山と渋谷の変貌はすさまじい。特にJRと国道246号線が交差する渋谷駅前、周辺4街区は都市再生特別地域の指定を背景に超高層ビルを含む壮大な再開発事業が進行中だ。

渋谷から東横線で1駅の代官山エリアは、その良しあしは別として、この影響を受けないはずはない。ステキ総研の会員も、当初は代官山の地域価値を幾度も議論してきたが、そのうち再開発事業に慣れてきたのか、この議論は少なくなった。それに代わって執行部の固定化、高齢化の問題が浮上してきた。

●つながる代官山

秋田のステキを発見

前期総会後に、秋田県由利本荘市に本社・工場を持つ本会新理事の廣瀬徹氏から、高感度ファッションの街・代官山と秋田とを連携させたいという相談があった。確かに、都市化や人口問題だけでなく、代官山にないものが秋田に多数あり、秋田にないものが代官山にある。お互いに学ぶことは多いはずである。早速「秋田ステキ総合研究所」の設立準備活動が始まった。

最初に、代官山の会員が秋田を訪ねる「秋田ステキ発見ツアー」を9月に実施した。1泊2日、会員による10人の視察であったが、秋田側の協力で、秋田市、横手市、由利本荘市を駆



稲庭うどんののぼりを中央に、左＝代官山、右＝秋田ブース(ヒルサイドテラス猿楽祭)

秋田との連携で新しい可能性

け足で巡った。想像以上のものを見たり、食べたり、土地の方の話を聞くことが出来た。その機会ごとに代官山には無い(無くなった)ステキを発見した。この成果を「秋田ステキ発見写真展」(撮影・山内久義)として猿楽祭で展示することにした。しかし、せっかく猿楽祭に出るなら秋田らしい楽しいアピールの希望が強く出された。

新結合で閉塞を突破

そこで、湯沢市で伝統手廻製法を守る「稲庭うどん しゅんぞう堂」の高橋栄氏を招き実演・販売・試食会をしてみもらった。結果は大好評、販売にもつながった。代官山は初体験という高橋氏はファッションモデルなスタイルで、乳母車を押す家族連れや外国人、それに高級外車の多さに驚いたという。普段、あたり前の景色を、外から見るこの大切さを痛感した。

地域連携事業は始まったばかりだ、両者の良さが新結合すれば閉塞突破の可能性が生まれる。秋田とつながって本当によかったと感じている。

(岩橋謹次 NPO法人代官山ステキ総合研究所理事長)